

授業科目	身体障害治療学 I				
担当者	掛川 泰朗 (実務経験者)				
実務経験者の概要	身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

身体障害の作業療法の概要やアプローチを学ぶ。中枢疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。また、中枢疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。中枢疾患ごとの作業療法に応じて実技を学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 身体障害の作業療法の概要やアプローチ方法を理解できる。
2. 中枢疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
3. 中枢疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
4. 中枢疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 身体障害作業療法の概論・様々な身体障害の作業療法アプローチ
- 第2回 脳卒中の概要
- 第3回 脳卒中の作業療法評価
- 第4回 脳卒中の作業療法評価
- 第5回 脳卒中の作業療法評価アプローチ
- 第6回 頭部外傷・運動失調 (検査含む)
- 第7回 脊髄損傷の概要
- 第8回 脊髄損傷の概要
- 第9回 脊髄損傷の作業療法評価
- 第10回 脊髄損傷の作業療法評価
- 第11回 脊髄損傷の作業療法アプローチ
- 第12回 中枢疾患の事例検討
- 第13回 中枢疾患の事例検討
- 第14回 中枢疾患の事例検討 発表
- 第15回 痛みの評価

## ■ 評価方法

単位認定資格者に対し、【科目試験 (筆記試験)】60%, 小テスト20%, レポート・報告20% として評価する。合格は60% 以上とする。

## ■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、解剖学・生理学・運動学や中枢疾患の知識の整理、復習を行っておくこと。毎回復習する時間が30分以上必要である。授業後のレポート課題は必ず提出すること

## ■ 教科書

書名：標準作業療法学 - 専門分野 身体機能作業療法学  
著者名：編集：岩崎テル子他  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書名：頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第2版  
著者名：二瓶隆一ら 編著  
出版社：協同医書出版社

---

書名：第3版 リハビリ実践テクニック 脳卒中  
著者名：千田 富義, 高見彰淑 編集  
出版社：メジカルビュー社

---

書名：動画でわかる 摂食・嚥下リハビリテーション  
著者名：藤島一郎, 柴本 勇 監修  
出版社：中山書店

## ■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること。実技のある日はジャージ着用のこと。

## ■ 講義受講にあたって

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。